

「以前は(和式が多くて)使えるトイレが少なかった」「新しい校舎になってきれいになった!」と喜ぶ児童たち。

※東小学校では、通常、児童によるトイレ清掃はありませんが、撮影のためにフローリングワイパーを持ってもらいました。



## 新発田市立東小学校

**全洋式と全温水洗浄便座で「家庭と同じ」使いやすさを追求**

**城下町にふさわしい城をイメージした校舎**

新発田市は江戸時代には十万石の城下町として栄え、新発田城をはじめ歴史的遺産を町の随所にとどめています。

2018年4月に開校した新発田市立東小学校は、松浦、五十公野、米倉の三つの小学校が統合してできた学校です。校舎は五十公野小学校の跡地に新築しました。城をイメージして、切妻屋根を採用したり、白や黒を基調とした色使いにするなど、歴史ある街並みに配慮した建物になっています。

**「家庭と同じ」に全洋式、全温水洗浄便座を導入**

スロープやエレベーターが設置され、建物全体をバリアフリーとしました。

トイレは児童が使いやすいように校舎の中心に配置しています。

器具は、文部科学省の小学校施設整備指針にのっとり、洋式便器を採用。また、「日頃家庭で使っているのが児童にとっても使いやすい」「冬場は冷えるので温かい便座がいい」という市の考えから、すべて温水洗浄便座と洋式便器をセットしています。

こうした配慮により、入学当初からトイレに戸惑う児童もなく、低学年のお漏らしなどの問題もほぼ発生していません。

また、メンテナンスのしやすさにも配慮。新発田市では、一人の用務員が2日に一度、児童が使うすべてのトイレの掃除を実施しています。そのため、できるだけ清掃がしやすいようにトイレ内は乾式に。さらに、小便器は清掃性に優れた壁掛け式とし、手指からの感染症対策のため、非接触

校舎内3系統の階段は、非常に時に児童たちが慌てないよう赤、青、黄の3色に色分け。普段から「青い階段」などと呼び、避難のしやすさに配慮しました。また、



小便器にはターゲットマークをあしらひ、尿はねや飛び散りを低減。



2F男子トイレ。壁掛け式の小便器は自動洗浄小便器を採用。角度をつけ、曲面上に設置した。



2F男子トイレのブース。トイレ内はメンテナンス性の高い床材を採用している。



1Fの多機能トイレ。乳幼児連れの保護者に対応できるようベビーチェアとベビーシートを完備。さまざまな人が使えるようオストメイト対応設備を設置。



1Fトイレ前には、児童たちの居場所作りのため広いベンチを設置。

の自動洗浄方式を採用するなど、あらゆる配慮がされています。しかも安全性の観点から防滑性の高い床材を採用しました。

多機能トイレは各フロアに設置しています。体の不自由な児童が入学したときに成長とともに各階で利用できるからです。

体育館はすでに耐震改修が実施されていたため、そのまま使うことになりましたが、トイレがありませんでした。校舎の工事期間中、体育館から使える仮設校舎までが遠いこと、さらに体育館は避難所の役割も担うことから、校舎の新築に合わせてトイレを新設しました。一般開放をしており、車いすの方の利用もあるため、体育館にも多機能トイレを設置しています。

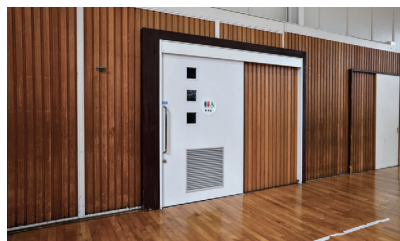
### 児童の気持ちを優先したトイレづくり

児童たちの学校生活を快適にするため、トイレづくりの予算要求や予算の使い方には苦労があったそうです。

「予算要求するときは、『なぜ、温水洗浄便座が必要なのか』など、一つひとつ理論的にその必要性を財務担当者に話しました」と市教育総務課学校施設係の長谷川彰さん。また、予算をやりくりするため、トイレの洋式化や



体育館の女子トイレ。ブースを隔てる仕切りは、のぞき見などの防止のため、天井近くまで立ち上げている。



体育館トイレ入り口。これまで体育館にトイレがなく、避難所となることから、校舎の新築を機に新設した。



体育館トイレの入り口を入ると、前室があり、右から多機能トイレ、男子トイレ、女子トイレに分かれている。



←体育館の男子トイレ。掃除がしやすいように、小便器は壁掛け式にし、その下には汚れや匂いを抑制する効果の高い汚だれ石を採用している。

↓職員用女子トイレのブース。児童用はもちろん、職員用トイレもすべて温水洗浄便座に。来校者も使用するのでベビーチェアを設置。



新校舎1Fの職員用トイレ前から既存体育館をつなぐ屋内型の渡り廊下(奥)。三角屋根にして変化を持たせている。



体育館は地域開放でも使われている。車いすの方も来校するので体育館にも多機能トイレを設置。



幼児連れの来校者もいることから、職員用の男子トイレのブースにもベビーチェアを設置。

新発田市内の小学校のトイレ洋式化率は現在約45%。今後10年かけて数値を上げていく計画を立てています。児童のためのトイレづくりは続いていきます。

「新しいトイレは、児童の意識に  
よい影響を与えています。」  
「少しでも汚れていると『先生、  
トイレが汚れているよ』とすぐに  
教えに来てくれるんですよ」と笑  
う須貝克徳教頭。トイレには保  
健委員の児童が自分たちで考え  
た「トイレをきれいに使いましょ  
う」と書かれたポスターも。きれ  
いなトイレだからこそきれいに使  
いたい、という気持ちが強くなっ  
ているのです。

温水洗浄便座のように最低限か  
なえてあげなければならぬもの  
と、我慢してもらうものとの優先  
順位をつけていったそうです。  
児童たちの気持ちを最優先に  
した結果、現在のトイレができあ  
がったのです。



特別支援教室に隣接した多機能トイレ。児童のけがなどに備えている。



昇降口もバリアフリーで安全に。昇降口の右側には乾燥室があり、濡れたコートや傘を乾かせる。



玄関へのアプローチにスロープを設けたり、校内にはエレベーターも設置するなど、建物全体がバリアフリーになっている。



保健室内のシャワーブースは、室内に腰かけつき。けがをした児童は座りながらシャワーを使うことも可能。



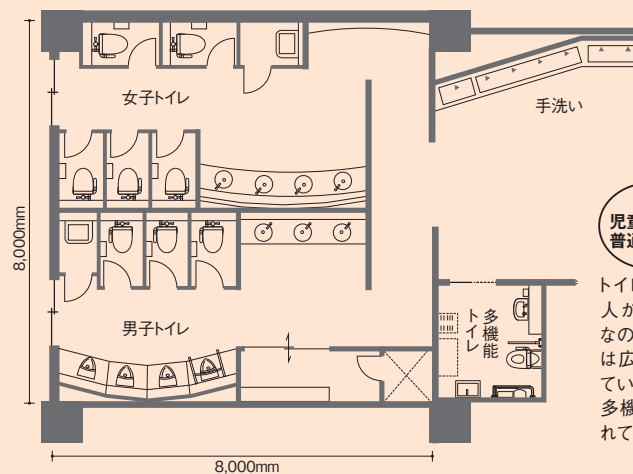
保健室内。体調の悪い児童に対応するため、こちらにもトイレとシャワーブース、洗面台を完備。



特別支援教室には、現場の要望を受け、手洗いの他にシャワーを設置(写真右奥)。入学したてで排泄後のお尻ふきが自分でできない子に備えている。

## 新発田市立東小学校 DATA

名称: 新発田市立東小学校  
 所在地: 新潟県新発田市五十公野4862  
 児童数: 430名(2020年4月)  
 施主: 新発田市  
 設計・監理: 基・石波・森 特定設計共同体  
 施工: 伊藤・石井組、電気:ミトモ電設、衛生設備:関川水道  
 竣工年月: 2017年9月(2018年4月開校)



1F  
 児童トイレ  
 普通教室棟

トイレは誰もが使い、人が集まりやすい場なので、出入り口付近は広いスペースを取っている。どのフロアにも多機能トイレが設置されている。